



野
總
茗
話
四



野總茗話第四

野州後学常盤潭北述

儉約と吝嗇の遠

一或向某^{あつ人}其^ま分^{ぶん}と儉物^{けんぶつ}を努^{つと}め^めひ^ひを吝^{しん}ま^まの^のこ
 と^とあ^あ比^ひの^のと^と洩^い傍^{ぼう}せ^せし^しま^ま迷^め惑^{どく}な^なり^りけ^けハ^ハ味^{あじ}と
 ち^ちり^りた^たま^ま新^{あたら}も^も起^{おこ}り^りま^ま中^{ちゆう}の^の此^{こゝ}に^に居^ゐる^るは^はん^んい^いを^を居^ゐ
 て^て中^{ちゆう}が^が 答^{こた}回^へそ^それ^れ儉^{けん}約^{やく}ハ^ハ衣^い食^{じき}任^{にん}と^と廉^{れん}
 相^あ小^{せう}し^し金^{かね}銀^{ぎん}を^を費^ひさ^さぬ^ぬの^のこ^こり^り才^{さい}一^{いつ}身^{しん}に^に樂^{らく}
 を^を欲^{よく}せ^せん^んして^{して}人^{ひと}の^の為^{ため}に^には^は意^い想^{じやう}遠^{とほ}く^く美^み事^{こと}

野總茗話卷四

足事^{たり}成^り知^るく金^ひを以^て人^びに乃^を去^りて
 らざ^らば^ばの儉^{けん}約^{やく}なり金^を和^を暖^を事^{ごと}り
 ぬ^く放^{はな}し^{こと}な^らば^ら儉^{けん}約^{やく}を似^にせ^る吝^{しん}
 かり儉^{けん}小^こして慈^じ悲^ひあ^はれ^ども^もそ^の慈^じ悲^ひ
 に與^あつ^たざ^らば^ば人^もも^もび^い儉^{けん}め^{して}慈^じ悲^ひあ^はれ^ど
 ざ^らば^ば撞^つぶ^たの^の人^もも^も悖^{へい}む^も及^及親^{しん}親^{しん}乃^を及^及
 一^いき^き成^じ恤^{しゆ}と^と終^{しゆ}小^こや^や朋^{ぽう}友^{ゆう}此^こ困^{くわん}窮^{きゆう}を^を救^{きう}ひ^給
 小^{せう}恤^{しゆ}救^{きう}小^こ事^じれ^くして^{して}只^{ただ}の^の家^けを^を累^るめ^あは^れ
 悖^{へい}ま^らず^く不^ふま^らず^くされ^ば家^け業^{ぎふ}ハ^ハ父^ふ母^ぼ妻^{さい}子^し成^じ

一^いま^まし^し先^{せん}祖^そを^を祭^{まつ}り^子孫^{そん}お^お統^との^のめ^めを
 進^{しん}え^えそ^の實^{じつ}を^を減^{げん}し^し人^にを^を救^{きう}小^こ物^{ぶつ}小^こハ^ハ
 比^ひ室^{しつ}の^の終^{しゆ}里^り成^じも^もつ^つく^く恤^{しゆ}む^むべ^べ儉^{けん}約^{やく}して^{して}放^{はな}
 事^じ事^じま^まきは^は吝^{しん}嗇^{さく}聚^く歛^{れん}され^ば四^し君^{くん}と^と以^て
 其^{その}機^きら^らる^るべ^べ一^い世^せ乃^の大^{だい}刑^{けい}儉^{けん}約^{やく}と^と河^か海^{かい}一^い
 吝^{しん}嗇^{さく}病^{びやう}を^を加^かけ^し又^{また}誇^こり^て費^ひし^老ハ^ハ分^{ぶん}量^{りやう}
 お^お應^{おう}し^しと^とい^い小^{せう}災^{さい}及^及終^{しゆ}里^り成^じれ^らる^る眼^{がん}前^{ぜん}小^{せう}事^じ
 落^{らく}事^じ親^{しん}親^{しん}を^を及^及恤^{しゆ}と^と終^{しゆ}小^こぬ^ぬ也^や悖^{へい}ま^られ^ら終^{しゆ}
 一^い人^{にん}ハ^ハ子^し孫^{そん}年^{ねん}を^を及^及一^い世^せ活^{くわく}も^もや^や

ぬ物なり子ハまゝに取の吝きんき小退たい屈くつし果くわ
 て家け々代小吝きんを待まちひのおごりてまひつり
 其そのの財さいら限かぎあり性せいハかぎりまゝ子孫しよんを
 續つづもこ此こ誠まことの志こころ一ひとは向むか後ごがけ
 も放はなしく陰いん性せい乃すなはち成なり終はつ家いえハ
 災わざ及およれこめ小吝きんを吐はきいづも曲まが成なり
 吝きん番ばんもや改かめ終はつ却かへり過あや言ことと申まを
 ありべかれと羨あやみ中なかの言こと悖へんぬハそめ
 が持もち病びやうめく是こゝもまゝ悖へんまゝと申まをす
 以も来こを怯おそみ中なか一

一
 又またいしく儉けん約やくある人ハ道みちホ志こころさぐひ安やす
 誇たかる氣きなまをへし吝きん番ばんなる人ハ乃すなち嫌きら
 欲ほしきゆへに儉けん約やくある人ハ交まじ厚あつし謙けん小
 有あり吝きん番ばんれる人ハ交まじ誅しゆし吝きんじゆへに儉けん
 約やくある人ハすく放はなし仁じんをありはし吝きん番ばん
 人ひとち己おのがみおひすこし仁じんをまもまよふこ
 まゝ誇たかむ好このむじて人ひとは吝きん番ばん共ともハ一ひと等どう上の悪あく
 人ひとを其そのの福ふく智ちありても用もちるに足たりしに

乃たよく考へくらしを居終ふべし竟と
帝ら茅屋根の朝ときひ縁七之天よ
まらうくひ終乃儉約推く知べしそれと
子裁の後とも譽するハ萬民を救ひ終
由一大明乃思宗皇帝は續と志する物
とさへ美終くひ終の儉約推して知べし終
ども身滅び四七びくるら故に事終ぬい
百姓の誅まるといふゆへ漢の文帝儉約と
勢め十二年に内よ二友才祝成終一

爰ハ終くひ終一終小終成終一きにあ
も終又困窮せし國家を事れり漢家罾
年此基らる祖の寛仁小起あといふも
實ら文帝乃儉約を助と依と去るは
儉約ハ國家に永久小一吝嗇と驕樂ハ
國縁を縮むる物ぞ能く思惟して儉約
と終とめ終へ

齊の晏子が儉約
或士同驕乃あき事ら志終く事

予恩言格巻四

彼王儉約あるも卑しく人の交も疎
 唯此分量知らず能強了勢分が宜
 るべきや 答曰そ分量知らず安
 む事よその晏子ら齊の國に宰相ありし
 ども一生活古き壺一ツ故美夫人ハ織
 せしれしとし今の世晏子ほど此分量の
 人小此儉約の産すべきや志くくバ儉約ら
 分量お慮と中事ハあるゆづく其上晏子
 が言に家門にちる者百家小好しと云六

しく旅し人となし人となし交る事し
 大切小せしれく孔子も晏平仲能與人
 交久而敬矣と譽給へり君を諫め友と
 助け必を保んじ其学堯舜の事よ及バ
 びといふもた厚く正べし儉約乃よむに
 ハ世界才一此人物ありしれ強小こそあ
 るも分量半分のみめく勢分は今の代
 の儉約と正べし其長乃比のよ石此
 方ハ今のふ百ふ小及むくいふ人い

治世小人の心袖みたる心を取失ひ軍用
 と志せざるゆよまをい換ふは遠くも心なき
 不也へ米穀下直小倉と家の米れア一不
 難依く米穀を並にあらんと困窮を忘れ
 てそれ如くまを換ふにえまうれとあもく
 中もたん虚して天の恩とも先祖乃恩も
 うへ取べき苦乃福とさ遠へる士多
 ぶべ一故不儉約ゆる士は多しと忠の
 分量の事論むべし

一 挺権

一 或同某忌昧ふして美事改めむん事
 又安うべ以疑ひあぐ一方は片付て致と
 必む後悔あり又分る小はるゆへ迷ひ悔
 きたる心察れしよ致と六当後悔あり又人
 と熟淡めく致し事も後悔多く山産外この
 迷ひ暗くく以乳くか致しへ 答曰世上
 換徳の上は後ハそ方小加しこさる純好の
 功不功運不運ありとあおが知まよふ事

熱ドての事理を以論一換徳の考めて被
し申ら一旦宜しく尺へいふも必後乃害を
乃を以て分くは一旦宜くさあまみれた
あま以後の悔れ一唯今申ても思ふは後
事申あはば是は乃る不乃り、持小くは
あてて乃はくことあて勢め給ふべしそを
ふても皆明をばるある人此智を借る分
給ふべし身のよよろしく給ひ人
が人のみらに勸る人は悔むべしす又乃

と乃しニツあはいげはり重きと推小くき
かしも重きこと勢め給ふべしあま
時の変化多しあて後悔も多し廿年
程の事此推と去人よあへし小頃日改れ
しは申あての持めく変化多しあまの事
生の事申小はあま倫の中あまの累し
あく勸るは偏小は蔭多し申はく申され
き此んれあまの人と約束あま又ハハ思て
いふがゆ申あて立出んとしあまは好物の

あまひおひ誘ひ来ははる業れづともて後
 理はゆりてもつとめんゆりめくも勢めん也
 打延し一しの外申まゝりてふ義理
 及ふ同ハ偽をりてふ義理のさらぬ縁
 此れの人らとれも変ひ小若むふてしれ
 一向虚で堅めく通るふはども此持とて
 ちバ志のまゝ人もしべし大形みらくか
 びあしぐさき物つは分持ふりましく
 の方を取者ハ此持もへべしされハ理
 して

物を分り人ハ変ひあまひも矩をあてて刀
 小く裁じくまけとて人を傷り恨を結
 び後悔なますあまひはかみく物と分り人
 ら毎度取のよふ者ハ物持りてめて迷
 途し又信者ハ己が力を信く謀りて変ひ
 し乃を似せく人おと飾る何れも後れ害
 ありげとれみく物を分り人ハ智也
 ゆりくする才一奪ふもあく迷いも
 よん度く私財今を度し此持とて

功を足給ふべし
功を足給ふべし

益益益の命

一或向日ハ陽之精月ハ陰の精并日蝕月

蝕の事亦さくは 答曰予ハ存ぜび天文

曆者此方ハ所存ハ又同学者ハ天文地理

小羽クありてハ理分ちぐくくしやう

答曰さ小ハありびハ人ア倫の日用文

天文地理小加くくびハ唯日とハ日と尺

月とバ月と尺陰陽又ハ陰陽又ハと是

一ハ海中之唯漢史も難るべくハ人の

乃めてハ美人此乃をけい得てハ天文地

理の事学んも能くくハ人ハ未

暇あべハ又向物ハ天文の学ハ益れな

事めてハ 答曰志くくハ天文乃学ハ世の

吉凶とて政の正不正は制王曆ハ要

のうごいを定む是を下ハ一益者なれば

いづく控中ハ人ハ日用の乃と見え

上中申して以又向天下は益を益取交の
 答曰それ天地はあゆる物益なりばらよ
 事れく万物こらくく人乃其日月の益
 ちる先日月星辰の運行る高き其の
 洞い及びれ化育山海草木金石は
 其も益然らり牛馬車馬材乃益
 まる足はべり人ハ万物乃其も其も
 万物の自然と知く彼と紐先と合せて
 分疎配劑して通用の益とまら又上

居く政を正しして世を安み下に居く
 職を務めせば其も其も其も其も其も
 よろと安く健び醫して病を治する
 ちて其も治まら次べり其も其も其も
 其も其も其も其も其も其も其も其も
 て政正しりて下とて職を怠り或ち
 己が好むまら其も其も其も其も其も
 を惑く或は彼世のこめら偽り或は私
 其好まを勉めく其も其も其も其も其も

飲の旨登滅等ハ世に害者と云べし
 物を傷ひ人を喰ふ畜乳斑猫砒毒の
 毒あるをくひとも病よ愈して菜と成
 差向る二伎様くくられた又穀を助る
 益を棟梁ハ美く踏板ハ卑しりども
 その差も事ハ一技に就るよ人ごと世
 子益れんは悪畜毒菜二伎も劣る
 て口おしうぐずや大丈夫時よあぐま家
 に差あるべし時よ過るハ救留へし益

あぐべし一身の樂に成りて天地の益
 を大儀る老乞外ら益益者也

君ら事難しといふ事

一或領主身を脩め家を無一民を保らん事
 と名ひ給ふ 答曰所先代しく治る由家
 中変れく國よ刑罰あく百姓を平と樂の
 すし子及中の乞禰よ此も本ハ西府ある
 海づく論語小孟莊子が孝その他ハよく
 正べしそ父の臣と改めが所ら能

志^しく^くし^しと^とひ^ひき^き孔子^{こうし}も^も答^{こた}の^のハ^ハ親^{おや}敵^{たか}の^の所^{ところ}
 治^ちめ^めこ^こに^に遠^{とほ}く^くと^とい^いふ^ふは^は亦^{また}も^も事^{こと}に^に非^あら^らず^ず
 夫^{こゝ}に^にあ^ある^るは^は必^{かな}ず^ず一^{いつ}の^の事^{こと}に^に中^{ちゆう}ふ^ふハ^ハ四^し反^{はん}小^{せう}
 忠^{ちゆう}ん^んなり^り人^{ひと}の^の所^{ところ}を^をべ^べく^くい^いそ^そ人^{ひと}小^{せう}古^こ例^{れい}舊^{きゆう}
 法^{ほふ}而^に官^{くわん}合^{ごう}され^れ山^{さん}勢^{せい}め^めと^と成^{せい}統^{とう}べ^べく^く存^{ぞん}以^い及^{じつ}蒙^{もう}
 の^の拙^{せつ}者^{しや}亦^{また}も^も中^{ちゆう}事^じも^も無^なく^く而^に存^{ぞん}忍^{にん}入^{にゅう}作^{さく}
 一^{いつ}又^{また}所^{ところ}存^{ぞん}小^{せう}回^{かい}全^{ぜん}言^{げん}の^の表^{へい}感^{かん}心^{しん}り^り一^{いつ}成^{せい}統^{とう}四^し反^{はん}
 ども^{ども}一^{いつ}回^{かい}合^{ごう}せ^せ勢^{せい}め^め中^{ちゆう}べ^べ一^{いつ}連^{れん}の^の事^じに^に乃^{すなは}た^た
 安^{やす}を^をゆ^ゆせ^せと^と 答^{こた}回^{かい}再^{さい}い^い山^{さん}存^{ぞん}れ^れ上^{じやう}ハ^ハ回^{かい}

穉^{ちゆう}小^{せう}及^{じつ}ん^んの^の不^ふ老^{らう}の^の一^{いつ}通^{とう}り^り以^い述^{しゆ}中^{ちゆう}べ^べ一^{いつ}ま^まづ
 君^{きん}と^と中^{ちゆう}事^じと^と一^{いつ}に^に比^ひし^しる^るこ^こと^と安^{やす}く^くい^いと^とす^す
 孔子^{こうし}れ^れ言^{げん}山^{さん}志^し忍^{にん}る^るべ^べく^くい^いの^の先^{せん}志^しと^と一^{いつ}
 ハ^ハ慈^じ悲^ひと^と才^{さい}一^{いつ}小^{せう}一^{いつ}儉^{けん}約^{やく}を^を守^{まも}り^り身^みの^の樂^{らく}を^を
 一^{いつ}の^の回^{かい}の^の樂^{らく}を^をい^いひ^ひ遠^{とほ}く^くを^を情^{じやう}み^み及^{じつ}を^を
 妻^{さい}を^を婦^ふ言^{げん}を^を用^{もち}い^いず^ず凍^{とう}を^を容^{ゆる}して^{して}儉^{けん}故^こ
 追^おひ^ひ貴^きハ^ハ節^{せつ}く^く一^{いつ}罰^{ばつ}ハ^ハ輕^{けい}く^く一^{いつ}收^{しゆう}む^むべ^べき^きを^を收^{しゆう}
 め^め救^{きう}ふ^ふべ^べき^きを^を救^{きう}ひ^ひ在^あれ^れ善^{ぜん}法^{ほふ}ホ^ホ一^{いつ}農^{のう}の^の時^{とき}を^を
 妨^{たが}む^むハ^ハ法^{ほふ}士^し故^こも^も一^{いつ}事^じハ^ハ家^けを^をれ^れる^る是^{こゝ}目^め

鼻耳口舌はなみみくちはままじくじく其その行ゆくるる所ところをを入いてて役やく
をを命めいずずるる時ときハハ智ち恵いをを所ところにに得えるる者ものも
矜あはれれ者ものハハ志し志しハハ威いをを實ちかしし言こと鮮しき
とと貴たかしし物ものハハ進しん退たいハハ心こころをを行ゆくるる者ものハハ奉ほう
奉ほうじじ目め付づハハ私しををままきき者ものハハ擇たくひひ那な代だい友ゆうハハ廉れん
ををああてて意い志しあるる者ものハハ探たんひひてて外ぐわいををああ
山さんををりり業ごう業ごうををままちちとともも律りつををああててををれれるる者もの
故ゆゑ其その故ゆゑハハ六ろく曲くわくにに行ゆくるる者ものハハ其その志しをを行ゆくるる者もの
のその心こころハハ命めいずずるる事ことハハ見み習じゆひひをを忘わすれれるる者もの

才智たいちををれれるる中なかにに生なずずるる者ものハハ中ちゆう治ちゆうにに出いでで
安やす堵どてて仕しひひ是こゝろををままちちにに行ゆくるる者ものハハ其その志しをを行ゆくるる者もの
此こゝろのこの志しををままちちにに行ゆくるる者ものハハ其その志しをを行ゆくるる者もの
てて其その志しををままちちにに行ゆくるる者ものハハ其その志しをを行ゆくるる者もの
一ひと又また神かみををれれるる事ことハハ其その志しをを行ゆくるる者ものハハ其その志しをを行ゆくるる者もの
それそれにに生なずずるる者ものハハ其その志しをを行ゆくるる者ものハハ其その志しをを行ゆくるる者もの
のその職しやくハハ其その志しをを行ゆくるる者ものハハ其その志しをを行ゆくるる者もの
内うちにに生なずずるる者ものハハ其その志しをを行ゆくるる者ものハハ其その志しをを行ゆくるる者もの
のその事ことハハ其その志しをを行ゆくるる者ものハハ其その志しをを行ゆくるる者もの

家中も又耳鼻口ハ如く此の如く家老
 一り足源中ると一り関ても成不中ハ然る
 小口よりこ此まら自比才智成是よりと
 之ハ法士を見下し仕立は友小批を入の
 由に裁判せんしまら有才一家老の威源
 く成法士も命を用いば此に成身ハ役人
 ハ成が如くたはあまても口を叩へ殿乃下知
 を待く己が職を礼と物のマヨハありた
 ん為く成身揃ぐらりししそ家必礼と

物よ由度いそ病家んふ合いし家老を
 小ゆへ倭人出立し民困しみ士疲きて四
 小眼おほきこと七回とすハ公怯しんぐ
 遊給ふべし

四城治家大矩の事

一或領主学問して出家と治めんハいふと
 由るあり 答曰ふ家は為小字習て成
 事一返環重成候ハ由度ハ也ハ一の要ん
 かけはバ大ぬる害をふし不学は時より

却而回家治ちかまと云ふ事なる物也而西府の
 そゆへに今の世上うへ産れ書成情いぢく見待文い
 事ことを成者なりにりりいとごとと学官がくと覺おぼへて方かたが
 面白く成なり行心えんしん乃乃とば喘あはへ失うしひ唯ただ口くちに
 きいりらううより老小成者なる多く西府のま
 学官がくして程り地ちゆゆとよとよて来きたる始はじめら
 先子せんしく人の氷ひがひくくもあはれ地ちははくく
 き物ものもく西府の然しかもも法士ほふし乃氷ひくく之これ彼
 へのま老らう是ぜハ役やく小せう立たぬ男おとこと家いへ中大ちゆうだい

緊きん痲ま者もの小せう及およてて中ちゆうの法士ほふしもも老小らうせうと見
 らししと節ふせりり強ちゆういい事ことのこに情じゆうと出いし
 誠まことを失うしひひ中ちゆうより傷人けうじん涌出わうしゅつてて中ちゆうのま
 老の好このむむ老小らうせう在ありりとと皆みなくく学官がく終しゆうらら
 武乃ぶのれれんんががけ弱じやくくく成なり似にセセたた居ゐ出いてて中ちゆうのま
 治ち者ものよよ武ぶ成なり志しとぬぬが誠まことの武ぶ士し小せうててのこ公こう今いま
 書しよ成なり好このままくくんんりり乃のと好このくく乃のと諸士しよし
 ととここくく乃のと知したた心こころ厚あつくく骨ほね好このむむて
 回くわい家か治ちりりべべくく文字ぶんじ言げん言げん句くハハ儒者じゆうしやよよ所

為らば及ハ乃成去りし人より成るよき
四は此法と日用いふ事足る中いそ
家國の凡俗ハ和を尊しとやしハ成
の孝官を和らぎて政の平生日用小成て
居そ進んで治其以適孝官を好し終小
恙あじどもと家全しハ政の平生
日用ハ慈也と儉約小節を以慈也ハ人の
慈也とさし中ハ河の情もさしある慈也
かれた言してん是が所ハ婦人の也に

成人内甲を尺透し一輪する事ハ物小し
内産の又家乳小入と成若小なり慈也ハ
所ち也婦人の也にて内産の唯慈也ハ小
ととらめハ四功を控じ裏へしを恤み弱きと
助を思ひ廣く及ぶと仁乃成と中ハ又儉約
ハ慈也とさしめ此儉約ハ慈也といふ家
のん女く儉約されハ法友とめつと小節足る
先此二つの乃を勢あひ協力あハ孝官と
も控くといふ事宜しとさしこれ大なる

らん人ハ乃の大矩のり也知く預細ささい小後のち云々
以預細ささい小後のち云々ハ小こるをとめく者もの任信にんしん
ひとく家けれ飾かざり限かぎ以も事ことを受くた信しん
を失うす乃其大おほいとハ仁義にんぎ忠孝ちゆうかうより外
ハ而しか産うれく以も此大矩このり矩が云々一好このむはば
國家こくがら安やすく治ちりすべし此中このちゆうんにめては
字あ官くわん持もぐさるべくい

智の論

一 或曰人乃乃至ある人のいふにんがて苦くるしむ本もとら何物なにものぞとか

之ハ皆これら知ちる事也なり乃すなはちは徒た若わがれす業也なり以も
是天地自然これらちちぜんぜんの理りある事ことを去く次強たかて名な
を求もとめ利りと貪あまり奪うをいそがく場人ひと中ちゆう
と乳ちゆうひをせん事故ゆゑ之を期まふハ妻さい子しに戲あそぶ
夕ゆふハ抱かか與より弱し事に登城のぼり城を去のちび後の
機は城を去のちず机悩なやみ生じて机悩を去る事
机悩を去る事疑うひ結む小隙ひまれく去る怒いか
代かへふ王を限かぎある生命いのち故ゆゑ苦くるしめてあはし不ふ
を見れば尖ます事こと万よろ戸こ儀ぎと成る事陶たう

朱石崇が如くみても借る香は一級一衣乃
 紙は凍へざらふる比是を悟らざる所智と巧
 めて己が爲に謀る人小荷換して物ま
 めも活をやく是皆智と結せられて苦
 むにあらずや智ありて苦せんよりハ愚し
 し安んハいじと家おも多幸此智に悩
 られ漸く一妻年惜るはく安樂よ成つら
 貴人よ善を勸る事ハすといふも智
 と結せらる事ハ免じく老ふく月日足

子一初も子よく智成きて安んよ成つら
 と予よりくとりよて止め明日又日昨日の事
 けんよ交りよ又交り足保いや承交い
 答昨日ハ亦交り申應答し侍りぬまじ
 日れ美履のうごひめて又来り給らん事成
 志れ昨日ち交りよ由へ師れん七日召給よ
 不ハ才子のんさうばそ不可成詳くふ
 せせやべり美履の心も一流あま事なれ
 とも人の乃とりハ事ハ欠り美履一分子

ち宣よしるべかれと徳人よ諭しし終すす事ハ
 用よ終するべしまぜかれハ美美履履ハ万万物物自自然然の
 理理れる事事故故知知く人人どどり自自然然の乃何何事事
 を志志べ智の害害する事事故故知知く智れ益益ある
 事事を志志すずそれ人人不不仁仁義義礼礼智智ある事事ら
 四四行行何何が如如く美美履履の悦悦む不ハ欲欲情情の智
 志志す不得得るが不仁仁義義礼礼智智人人仁仁義義あ
 せば智智も又又仁仁義義何何の苦苦む事事らあ人や仁
 義義礼礼智智の並並れる事事ら不得得るハ水水乃乃流流るが片

徳徳小小穴穴あ小は小は小そ小穴穴不不充充く下へ切切がめく
 一一毫毫も私私かく勅勅といいてもそ不不得得るハ
 苦苦しし半半れ今試試小小仁仁義義を不得得て終
 へ終る智明明く不得得るハ苦苦しし半半れハ
 あるゆにそえの安安樂樂ハ私私欲欲を去終終ふ成
 べし志れどもいまどよしとまるふことハ
 乃乃と勢めく安安樂樂あんとはいの道道これ
 智智のさす事智智あらざれど乃と志すハ天
 下下治治るハ又又倫倫齊齊らば農農業業百百工工此此を用

是くは智を愚まは竟舜孔子も聖く
ふべくは安楽の安楽故に安まふも智
乃徳れるべし智を狂悖ノ用ある内ハ
曲ましく苦しみ仁愛れる内ら智すふは
めしく安楽あつと安へるまふ金云々
べし人子若を勉むるを措けたる後
此産ども家ホグ及ぶあはびある
人あはび答ふると安しは家ホグ安そ
是ハ安楽の安楽大マシ智ハ只人ら

人の乃よりおれし安をハ得んは
此草葉ハ日比の夜乃内おし書憑とき
と安そて友多くハ農商れ乃有て論を
低く言も卑し一向質直をそよ乃て安
江戸小畑町廉沼屋は某ハ野州廉沼の産
あはに田氏あつて家業手剣の功有て海
武府よ在宅し出店りもて七寛繁男ハ
如新家業小んをへし在学問をき半は
悔きて書を流且三小就く乃は論にて

僥事外一其上此系棄と様ハヤん事を
頻りに勤めりあや世へそ源切然一がく
そ乞ふ不仁以月於勤めらん人小仁以
るに其故告給く大幸一隊へ一此に田氏に
直言あつてそ源切と隊中居あつてそ言
小乃を説中急まれバ家故忘して自費
多一功を遂ふ事ら寛めよあつて
是より一して源く只故怯む事と覚悟一
侍る

一此系棄元二百枚ざらりある梓切の累
一さに残一侍る其残はら必く種廻
ア見ゆ一する事どもこそ内侍種大伏の
女と侍が忠義侍同不安最某が孝并に戸
の高家秋浦此某う孝切れと残念ふく成
一侍る生質乃美れる事学才の人此及ふ
べき所小あつて後日必死くして世乃種と
たへべき事故希小抱也

野總若活卷四終

寛政元年己酉三月吉日

心齋橋筋南久太郎町

塩屋士吾助

大坂書肆

江戸堀三丁目

千草屋平兵衛

浪華書肆盛栄堂藏板目錄

江戸堀南三丁目

千草屋平兵衛

日本山海名物圖會

本朝金箔納法の中世に於ては陸山川に於ては海産物を採りて其の味を記し其の産地を明し其の用法を傳ふるに於ては此の圖會が最も詳しきものなり

増補画本國見山

道春點四書

全部十冊

八分字千字文

全部五冊

朱文公童蒙須知

全 桃李苑法帖

石刻

童蒙須知頭書

宇都宮の著

全 醫學的

全部二冊

夢占繪鈔

全部二冊 周公且の著

夢卜集要指南

全部二冊

鯨志

全部二冊 肥後熊野浦鯨とりの式

潜夫論

翻刻 全部五冊

妙見秘録

全部二冊 法心如尼の著

曆代一覽

全 画本勇名草

全部 寺井重房画



放下筌 全部三冊

天狗通 全部三冊

西國頌礼独案内 全

尊圓親王真跡庭訓往來 全

野總茗話 全部四冊

懷寶年代記 折本

奇談深山草 全部四冊

怪異談叢 全部五冊

頼光勲功記 全部六冊

画本異國鑑 全部二冊

筭法初心車 全部六冊

新板なごころ 上下二百枚

出世塵劫記大成 全

大和詞抄 全

疊筭合義的 全

妙見大菩薩御夢相疊筭 全

筆林倭寶鑑 全

宇津山小蝶物語 全部六冊

野内證鑑 全部五冊

口上律 全

分現玉の礎 全

富貴の地基 全

戲場性根玉 全

風月外傳 全部二冊

画話耳鳥齋 全部四冊

画本戲功能艸 全

玉置万要書札 全

わらわると須戸免 全

玉置筆海專要 全

画本弘法秘密艸 全

千字文 全

小謡千秋樂 全

女鹿筆 全

沢田氏女筆 四季の友 全

あまの手は... 百物語の手は... 流るれつら... 志とせむし...

けい余の占ひ... けい余の占ひ... けい余の占ひ...



